

ひきこもりに係る支援のあり方について(論点整理)(1/2)

区分	支援のあり方(今後の方向性)	論点
基本スタンス	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりの状態や状況に応じた支援 ○ 切れ目のないきめ細かな支援 ○ 当事者だけでなく家族を支える支援 <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ひきこもりに係る支援にあたって、関係機関や支援者が持つべき基本スタンスや理念はどういったものか ○ 基本スタンスや理念を確認・整理し、提言に明記すべきでないか
相談体制 支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誰もが身近な地域できめ細かな相談・支援を受けられる体制の確保 ○ 当事者の状態に合わせた多様な支援機関(受け皿)の確保 ○ 当事者だけでなく家族を支える支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目指すべき相談・支援体制の姿はどういうものか ○ 相談者の目線に立った体制づくりが必要ではないか(相談のしやすさ、広域でのフォロー など) ○ 中高年層への支援の枠組みを確立することが必要ではないか ○ 「親亡き後」等、将来の不安を抱える家族に対する取組は何か ○ 家族への支援には、「当事者を支える家族への支援」の視点と「高齢化など家族本人が抱える課題への支援」の視点とあるが、それぞれどのように取り組むべきか

ひきこもりに係る支援のあり方について(論点整理)(2/2)

区分	支援のあり方(今後の方向性)	論点
連携づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域における連携ネットワークの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目指すべき連携体制の姿はどういうものか ○ 当事者や家族に関わる各機関の位置づけを明確化すべきではないか (例)・相談・支援の実施機関 ⇒ 「相談・支援機関」 ・当事者を把握した際、相談・支援機関につないでいる機関等 ⇒ 「連携・協力機関等」
相談員・支援員等の理解促進・資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相談員や支援員等の理解促進・資質の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当事者・家族の心情を理解し寄り添った対応ができる相談員・支援員の養成が必要ではないか ○ アセスメント(見立て)のスキル等、専門性を持った支援者の確保・育成が必要ではないか ○ 「相談・支援機関」と「連携・協力機関等」、それぞれ持つべきスキルは何か
早期発見 早期相談・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ ひきこもりの早期発見、早期相談・早期支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早期発見のため、支援機関同士のネットワークの構築や地域における見守りの充実が必要ではないか ○ 早期相談・早期支援につなげる普及啓発の工夫が必要ではないか